

横浜市立都筑小学校

令和7年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「学ぼう つながろう やりとげる 都筑の子」	<問題発見・解決能力> <コミュニケーション能力>

(2) 中期取組目標

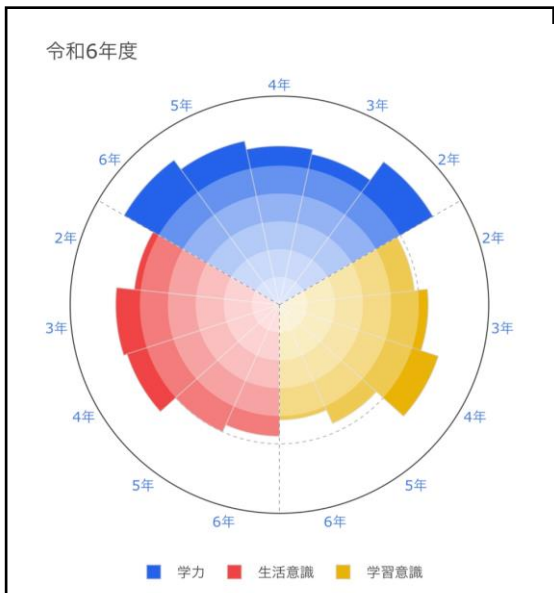
中期取組目標
組織的コミュニケーションとチームワークで「誰もが安心して豊かに生活できる学校づくり」を目指します。 ・主体的に学習に取り組み、互いに学び合いながら、問題を解決していく力を育てます。(問題解決力・活用する力) ・人とのふれ合いや関わり合いを大切にされた教育活動を展開し、互いに認め合い思いやることのできる心を育てます。(自己肯定感) ・心身の健康のために、進んで運動したり、毎日の食事や生活習慣を大切にしたりする力を育てます。(健康体力) ・地域の特色や地域教材を生かした教育課程を工夫し、まちの「ひと・もの・こと」とつながる体験的な活動を通して、まちを大切にすることを育てます。 ・YICAを核としたコミュニケーション活動を推進し、異なる文化や考え方を尊重することができるようにします。(コミュニケーション力)

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	① 重点研究である国語を中心に、主体的に学習に取り組む授業づくりを行う。②各教科において、相手を意識して積極的にコミュニケーションを図る学習展開を工夫する。③教科担任制により、交換授業や教科を分担して指導していくことで専門性や授業力を高め、児童の学力向上を目指す。

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

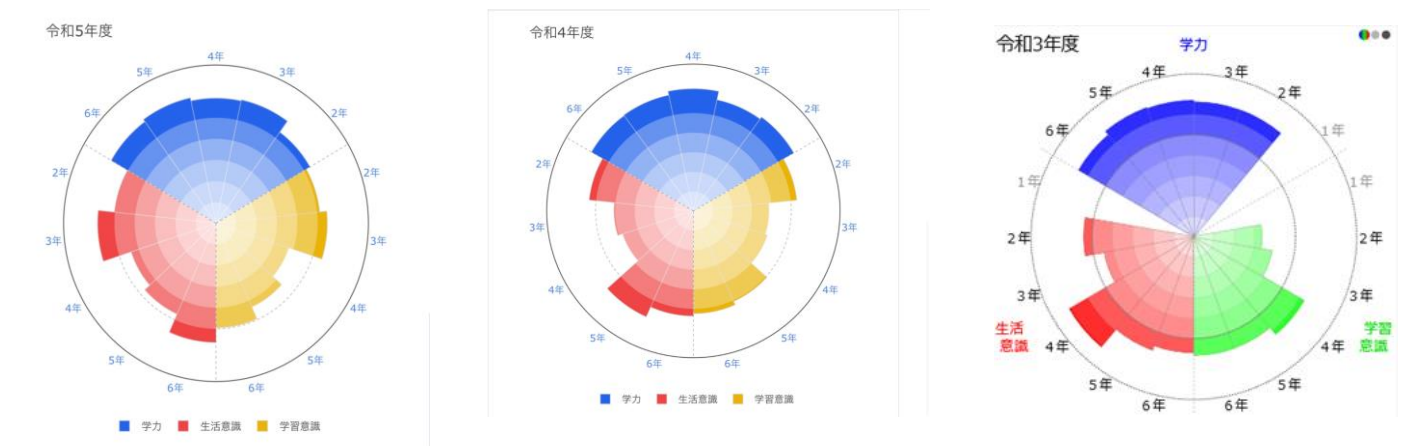


全ての学年で横浜市の平均学力を上回っている。しかし「学習意識」や「生活意識」が平均を下回っている学年が見られる。今後も個人個人の学力が向上できるように、授業の興味付けや授業改善が必要だと考えられる。

問題の分析を行うと、基礎力の高さが見られるが、より主体的に学習に取り組める姿勢と思考力を付けられる授業の工夫が必要とされる。自力解決の時間を確保し多くすることで、主体的な学習に取り組めるようにする。またお互いの意見を交流する機会を設けることで、多様な考え方に触れ、考え方を深めていくことができるようにする。重点研究を通して行う学年チームでの共同研究や、教科分担制による専門性を活かした授業改善により、一人ひとりがわくわく取り組める授業を目指していくことが必要と考えられる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科： 基礎的・基本的な言葉の使い方、文学的な文章を捉える力、登場人物の気持ちを想像するなどの読解力が身に付いている児童が多い。しかし一方で、説明的な文章の構成を捉える力や文章を要約する力は、市の平均を下回る学年が見られる。今後は文章の構造への理解を深める時間を十分に確保する必要だと考えられる。
- 社会科： 資料をもとに正しく社会的事実を読み取り、理解する力がよく身に付いている。高学年では事象や人々の相互関係に着目し、生活の向上に関連付ける問題など、自分の考えを述べる問題では回答率が低い。国語の力にも関連するが、考えを表現する力が必要とされる。
- 算数科： どの学年でも基礎的な計算をする力がよく身に付いている。中高学年では、複合的な面積を求めるなどの平面図形、空間図形の正答率が低い傾向にある。図形そのものと図と式との関連を意識できるような授業改善を今後はしていきたい。
- 理科： 全体的に学習意識が高く、科学的探究心が表れている結果となった。実験の予想をもとに実験計画を適切に考える力や、生活経験をもとに実験の予想をする力が身に付いている。一方、正しい実験器具の扱いについては理解が定着はしていない様子が見られる。今後も、正しい実験器具の使い方を都度確認する時間を確保することが必要だと考えられる。



(3) 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

令和3年度以降の結果を見ると、学力についてはすべての学年で横浜市の平均的な学力を上回っている状況が見られる。特に令和6年度は学力が横浜市の平均的な学力を大きく上回っている。どの学年も基本的な学力が身に付いていることがわかる。

一方、「学習意識」や「生活意識」については、学年によって特性が見られるが、学校全体としては大幅な変更は見られない。しかしどの学年も学力が横浜市の平均を大きく上回っている中で、「学習意識」「生活意識」ともに市の平均よりやや低い傾向が見られる。基礎学力が定着しているにもかかわらず意識が低いのは、学校での授業改善が必要とされていると言える。重点研を中心として、児童が主体的に学習に取り組めるよう授業力の向上に努めていく。また、家庭との連携をとりながら生活意識の向上も図っていきたい。

このような結果から、学力向上のための働きかけが重要であることを教師が強く意識し、児童の「学習意識」の高まりや「分かる」「できる」ことが「楽しい」という意欲付けをねらうことが必要である。また、日常生活や教科外の活動を通じて、物事を最後までやり遂げる達成感や自分には得意なことがあるといった自己肯定感をもてるようにすることも引き続き大切にしていきたいと考える。児童が自己肯定感をもって学んだり生活したりする経験を重ねることで自信をもち、意欲をもって挑戦していけるような環境をつくっていきけるようにしていきたい。今後も以上のことを教職員で共通理解し、「学習意識」が学力の向上や児童の自信につながっていけるような授業改善に取り組んでいけるようにしたいと考える。